

南仏治安情報（11月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、偽爆弾設置事案

8日午前中、5区 **Saint-Pierre** にある教会建物前に爆弾と覚しき物があるのを発見した警備員が警察にその旨通報し、駆け付けた警官によって同物件が本物の爆弾ではなくイミテーションであることを確認した。警察は本件をただの悪戯として扱わず、教会に対する脅迫、或いは過日行ったロマ人キャンプ解体に反対する者の抗議行動の可能性があると見て慎重に捜査を進めている。

（2）コルシカ島ティッツアーノ発生、建設中の別荘爆破事件

16日、仏本土在住者がコルシカ島に建設中であった別荘が、何者かによって爆破された。現場には「**FLNC**（コルシカ民族解放戦線）」、「フランス人は出て行け」との落書きの他、**FLNC** が「植民地主義の犠牲者」と見なしている「**アクアヴィア**」氏の名前も残されていた。

（3）コルシカ島発生破壊活動関連、活動家の一斉検挙

2012年にコルシカで発生した10件の別荘等爆破事件及びコルテ郡庁爆破後に行われたデモに伴う破壊活動の容疑で、25日にコルシカ各地の民族運動活動家17名が検挙された。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、待ち伏せによる銃殺事件

10日未明、29歳の男が15区 **La Viste** の路上を歩いていたところ、待ち伏せしていた何者かに背後から複数回銃撃され死亡した。被害者は過去に強盗の罪で叔父とともに服役しており、またこの叔父は本年8月にマルセイユ北病院で恐喝事件を起こしており、警察は犯罪組織同士の抗争とみて捜査している。

（2）マルセイユ発生、タクシー乗車中の男を狙った銃殺事件

11日の午前中、強盗などの凶悪犯歴ある男がタクシーに乗車中何者かにカラシニコフで銃撃され死亡した。被害者は刑務所から出てきたところであった。幸いタクシーの運転手は無傷だった。

● 強盗（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、3件連続強盗事件

2日の夜、3人組の顔を覆った男が黒色メルセデスに乗車し、3軒の店に強盗に入った。被害に遭ったのはいずれも9区にある「リーダープライ

ス」、「デカトロン」、「コンフォラマ」で、わずか1時間の間に立て続けに3店舗を襲った。

- (2) ヴォクリューズ県オランジュ発生、薬局を狙った強盗事件の発生と検挙
20日、中心街の薬局に白昼堂々カラシニコフを使用した強盗事件が発生した。犯人は薬局で薬の処方拒否されたことに激高し、店員をカラシニコフで脅した。その後犯人は逃走したが、警察の追跡捜査により即日逮捕された。
- (3) BDR県アルル発生、スーパーを狙った強盗事件
20日夜、マスクで顔を覆い手袋をした2人組の男がスーパー"D I A"に押し入り、ガス銃で店員を脅して金庫を開けさせ現金450ユーロを奪って逃走した。金庫を開けさせられた店員は犯人に威嚇射撃されたことでショックを受け、病院に搬送された。
- (4) BDR県Allauch発生、薬局を狙った強盗致傷事件
20日夜、Bocageにある薬局に2名の男が押し入り、店員を銃で撃ち負傷させた。その後しかし何の理由があったか不明なるも、犯人らは現金を奪う等せずに逃走した。

● 傷害（邦人被害なし）

- (1) マルセイユ市発生、銃乱射による重傷傷害事件
2日午後、13区シテ Parc Corot において、何者かが2人連れの男に対して銃を乱射し、26歳男性に6発、連れの男性に2発撃ち込んだ。1名は重傷。警察は被害男性らの薬物犯歴等から薬物絡みの抗争と見て捜査を進めている。
- (2) ニース発生、泥酔客らによる集団暴行傷害・公務執行妨害事件
9日未明、近くのディスコから出てきた酔っ払いの若者達がパン屋に立ち寄り、そこで女性店員に乱暴な言葉遣いをしたことから他の店員と口論となった。怒った5名の若者らが店員を殴打し、助けに入った店長らにもバット等で暴行を加えた。騒ぎはエスカレートし、乱闘に加わる若者も20人にまで膨れ上がり、通報で駆け付けた警察官まで負傷する事態となった。
- (3) BDR県シャトールナール発生、休戦記念式典を狙った傷害事件
11日午前中、休戦記念式典中の会場に統合失調症の男が乱入し、市長他2名の列席者をナイフでめった刺しにした。病院搬送された被害者らは命に別状はなく、犯人は直ちに取り押さえられた。犯人は取り調べの中で、「市長とはテレパシーで通じており、自分に襲われることを知っていた」等意味不明な言動をしており、責任能力の有無につき議論が巻き起こって

いる。

(4) アヴィニョン発生、猟銃狙撃による傷害事件

23日夜、ビルの0階にいた男性が、何者かに脚を猟銃で撃ち抜かれて病院に搬送された。警察の聞き込み捜査によると、近所の住人は犯行時刻に2発の銃声を聞いていたという。

(5) ニース発生、キックオフ前のスタジアム内における集団暴行傷害事件

24日、アリアンツ・リビエラ競技場で行われたサッカー「リーグ1」の試合前、会場でアウェーの「サンテティエンヌ」チームのサポーターがホームの「ニース」サポーターに向けてスタジアムの座席を取り外して投げつける暴挙に出た。これにより9名が負傷し、警察の介入により「サ」サポーター約100人を排除する騒ぎとなった。

● 薬物関連

(1) マルセイユにおける、麻薬組織壊滅オペレーションの実施

5日午前、警察が優先保安地域における治安改善オペレーションを展開し、14区 Font-Vert にあるアパートの1室から大麻草11kgを押収するとともに、毎年何百万ユーロという違法利益を上げてきたマルセイユの草分け的麻薬組織を壊滅させた。

(2) アルプ・マリタイム県アンティープ郊外における、伊マフィアリーダーの検挙

7日、マルセイユ薬物捜査班とイタリア当局との合同捜査により、マフィアのリーダーである65歳イタリア人男を逮捕した。この男は懲役11年の刑を宣告されて以降、故郷カラブリア（イタリア南部）から姿を消していた。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) トゥールーズ多発の詐欺事件、被疑者の検挙

11月上旬、トゥールーズやパリの路上で詐欺行為を360件行っていた男女2人組に1年の禁固刑が下された。彼らの手口はハイカーを装い、道行く人に「身分証や財布をなくしてしまい、手許にある銀行カードだけではホテル代の精算ができない。」と偽って借用証書と引き替えに現金100ユーロ程度を「借り受け」というもの。お金を貸した通行人は翌日返済のための待ち合わせ場所に行き、そこで騙されたことに気付くのであった。この事件は、過去に犯人らに金を「貸した」善意の通行人が後日偶然彼らを発見したことが端緒で解決した。

(2) ヴォクリューズ県ソルグにおける、車上狙い犯人の検挙

11月中旬アヴィニオン憲兵隊は、駐車中の車内からフランス人や外国人旅行者の荷物を盗んだ等、20余件の車上狙い犯として指名手配されていた37歳男を逮捕したと発表した。犯人の自宅ガレージには100個ものスーツケース等が放置されており、中には被害者の衣類やカメラ等が入っていた。

(3) BDR県 Pertuis 発生、侵入窃盗未遂事件

19日夕方、一軒家に住んでいた女性が外出しようとしたところ、防犯のためセットした侵入警報が鳴り響き、2人組の男達と鉢合わせた。男達が泥棒であることをすぐに理解した女性は、慌てることなくドア越しに犯人らと会話し、家人の存在をアピールすることで犯人らを追い払った。

(4) マルセイユ発生、ワールドカップ本戦出場を祝うアルジェリア人による騒擾事案

19日夜、2014年ワールドカップ本戦へのアルジェリアチーム進出が決定したことを受け、市の中心街でアルジェリア人100人規模の「バカ騒ぎ」が発生した。マルシェ・ド・ノエルが始まった同地区での騒擾に警官隊が投入されたが、集団は発煙筒などを警官に投げつけるなどして周囲は騒然となった。この騒ぎの中、トラックの上に乗ろうとした男が転落して負傷する等、アルジェリア人集団側2名が負傷し、警官隊側も投げつけられた発煙筒で負傷する被害を受けた。

(5) アヴィニオンにおける、自動車盗事件の発生と被疑者の検挙

23日未明に駐車中の自動車を盗んでいた男が、異変に気付いた車の所有者に呼び止められ、驚いた犯人が車を急発進させて壁に激突するという事件が起こった。犯人はその後車から降りて逃げようとしたが車の所有者に取り押さえられ、敢えなく警察に逮捕された。